

鳴り物入りでぶち上げた「働き方改革」！ 杜撰なデータと現実無視で早くも断念か！

1月22日、通常国会の冒頭「施政方針演説」で、安倍首相は、「働き方改革を断固断行します」と高らかに宣言し、今国会を、「働き方改革国会」と位置付け「働き方改革関連法案」の早期成立を目指すことを表明しました。

首相曰く、「意欲を持って働くことができる。誰もが能力を発揮できる」「70年ぶりの大改革」「非正規という言葉がこの国から一掃してまいります」「わが国に染みついた長時間労働の慣行を打ち破ります」「ワークライフバランスを確保する」……。

長時間労働の是正、年休取得促進、勤務間インターバルの確保など、誰もが安心して生きがいを持って働くために、働きやすい職場環境を実現することは重要なことです。しかし、政府が進めようとしている「働き方改革」は、耳障りの良い言葉を羅列したまやかしに過ぎません。労働者を保護するために企業の側に規制をかける法整備と、企業が利益を上げ生産性向上を追求するために行う法整備など、いわば矛盾した内容が盛り込まれているものを、一括法案として審議し、とりまとめるなどということは、そもそも無理があるのではないのでしょうか。政府の狙いは、低賃金でより企業に、国に従順で、もの言わず働き暮らす労働者を育成する、ということにあるのではないのでしょうか。そのために、あたかも労働者の立場に立ったような言葉を羅列しているに過ぎないのではないのでしょうか。

労働者保護につながる規制も削除？

現実に、杜撰なデータや裁量労働制をとっていた社員の過労自殺の発覚などの問題が明らかになり、裁量労働制の拡大を断念せざるを得なくなるや、労働者保護のための規制強化策（長時間労働の解消、勤務間インターバル、年休取得促進など）も法案から削除されるという動きも出てきています。これでは、誰のための「働き方改革」だったか、と改めて疑問を持ちます。

私たちは、働きやすい職場をつくるためには、職場にあらわれている問題点（休日出勤、年休失効、サービス労働、早め出勤奨励と称する強要など）を一つひとつ指摘し、解決していくことが重要であると考えています。2018 JR総連春闘を職場から闘い、本当の意味での「働き方改革」を実現しなければなりません。